

雨水ポンプ場の耐震化について

下水道整備課

1. 政策等の背景・目的及び効果

雨水ポンプ場は、降雨時にその流域内の雨水を河川に排水するための重要な施設であり、地震の影響により排水機能が停止すると、広範囲にわたり浸水被害が発生するおそれがあることから、市民生活に支障をきたすこととなります。

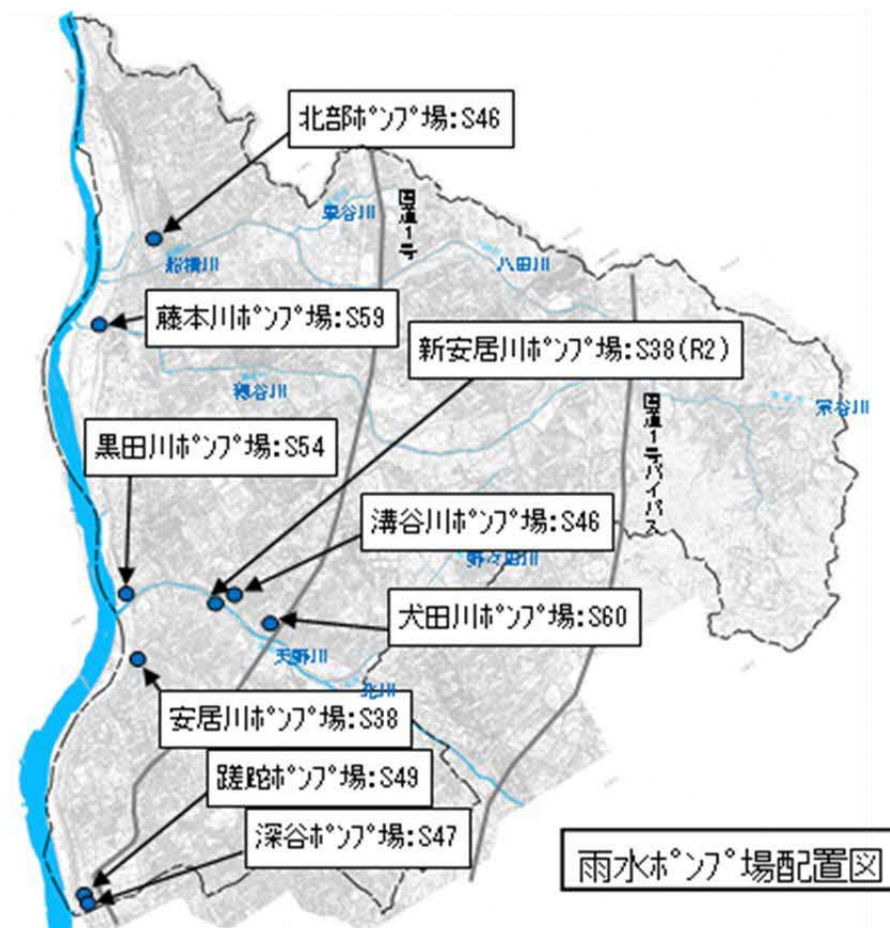
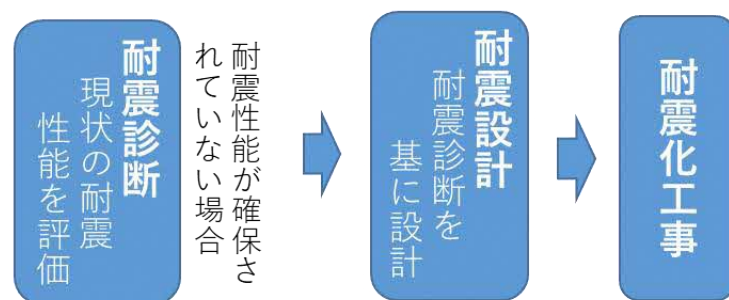
上下水道局では9箇所の雨水ポンプ場を管理・運用していますが、これらのポンプ場が、地震の発生時に排水機能が影響を受けた場合でも、速やかに回復して被害を軽減できるよう耐震化に取り組むことにより災害に強いまちづくりを進めるものです。

2. 内容

【事業の概要】

耐震性能を備えた新安居川ポンプ場を除く、8ポンプ場の耐震化に着手した令和2年度（2020年度）当初は、1年に1ポンプ場の耐震化工事を見込み、令和11年度（2029年度）までの10年間の期間を設定しておりました。その後、令和元年度（2019年度）に創設されていた「緊急自然災害防止対策事業債（以下「緊自債」という。）の要件が拡充されるとともに、期間についても令和7年度（2025年度）までの時限措置として延長されました。緊自債については、元利償還金の70%が地方交付税措置されるもので、可能な限りこの有利な財源を活用する観点から、当初設定していた令和11年度（2029年度）までの期間を、受変電設備の更新と合わせ、令和7年度（2025年度）まで前倒しして、ポンプ場毎の様々な課題を解決しながら取り組んでいます。

（耐震化に向けた取り組みフロー）



3. 実施時期等

(1) 各ポンプ場の耐震化の状況について

【令和5年度（2023年度）までに耐震診断業務に着手したポンプ場】

安居川・北部・溝谷川・蹉跎・黒田川・藤本川・犬田川ポンプ場の7ポンプ場

【令和5年度（2023年度）までに耐震化工事に着手したポンプ場】

北部ポンプ場（建築・土木）、溝谷川ポンプ場（建築）の2ポンプ場

(2) 令和6年度（2024年度）の主な事業概要

蹉跎・黒田川・藤本川・犬田川ポンプ場の4ポンプ場の耐震設計業務

安居川・蹉跎・藤本川ポンプ場（建築）、北部ポンプ場（土木）の4ポンプ場の耐震化工事

(3) 耐震化の取り組みと今後の予定

緊急自債の時限措置⇒

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和 10年度以降
耐震診断	安居川 北 部 溝谷川		蹉 跎 黒田川 藤本川	犬田川	蹉 跎		深 谷 ※寝屋川市 協議要		
耐震設計		北 部	安居川 溝谷川	蹉 跎 藤本川	蹉 跎 黒田川 藤本川 犬田川	蹉 跎 黒田川		深 谷	
耐震化 工事※	凡 例 青字：建築工事 赤字：土木工事		北 部	北 部 溝谷川	安居川 北 部 蹉 跎 藤本川	安居川 北 部 溝谷川 蹉 跎 黒田川 藤本川 犬田川	安居川 溝谷川 蹉 跎 黒田川 藤本川 犬田川	黒田川 藤本川	深 谷 黒田川
受変電 設備更新	耐震対策指針に基づき、 耐震性能を相互に整合 電気設備—建築工事		北 部	安居川 北 部 溝谷川	安居川 蹉 跎 溝谷川 藤本川	蹉 跎 黒田川 藤本川	黒田川		

※今後のスケジュールについては、耐震設計の結果により、変更となる可能性がある。

4. 総合計画等における根拠・位置付け

- ① 総合計画 基本目標 安全で、利便性の高いまち
施策目標 1 災害に対する備えができているまち

- ② 枚方市下水道ビジョン2022

安全・安心な市民生活の確保：下水道施設の耐震化

- ③ 枚方市下水道整備基本計画（中間見直し編）

地震対策：ポンプ場の地震対策



5. 関係法令・条例等

下水道法、地方公営企業法

6. 事業費・財源及びコスト

《令和6年度（2024年度）事業費》 629,000千円

《財 源》

国庫補助金 : 151,500千円

企業債 : 149,800千円

一般財源 : 2 1 1 千円

工事負担金 12,789千円

他会計負担金（緊自債）： 3 1 4, 7 0 0 千円